特集

自分らしく社会とつながり、
松戸で活躍する。

ユース世代の市民活動の魅力













サポセンの中学生～20代対象の
夏のボランティア体験講座
「Let's 体験！！」では、
毎年250人を超えるユース世代が
松戸の地域での活動に参加しています。
一方で、近ごろでは高校における探求型学習の推進や、
大学のゼミ活動等におけるサービス・ラーニングや
地域活動の展開の拡充など
「自分の関心のある社会課題の解決につながる活動をしたい」と、
ユース世代における活動の在り方やニーズも多様化しています。
今回は地域活動に参加して自分らしく地域と関わる
大学生世代6名に取材をして、
ユース世代にとってのリアルな
松戸市の市民活動の魅力を聞いてみました。

大学生世代
6名に
聞きました！

1 森のこども館で活動
（大学2年生）

子どもたちと自然の材料を使った遊びをしたり、昔遊びや皿回しをしたりしています！

新しいことを始めようと思ったタイミングだった！



【左】星さん　【右】川島さん

【活動のきっかけ】大学の講義の中で、「森のこども館」の活動を体験する機会があり、ボランティア募集を知って定期的に参加するように。

活動のやりがいはどんなところ？

川島：「自分は子どもの時、こうしてほしかったな」と感じた経験を思い出しながら子どもと関わっています。しっかり話を聞いてくれる大人がいること、あったかい場所があることを伝えたいです。子どもに「今日来てよかった！また次もいる？」って聞かれると自分の思いが伝わったな、と感じます！

活動していて印象的だった人は？

星：「こども館」だけど、大人や外国人観光客も来るんです。「楽しかった、こんな活動があるって知れて良かった」と言ってもらえると、やってて良かったなぁと思います。

川島：館長さんですね。何度も会って仕事を教えてもらう中で、できないこともたくさんあるけど、それも当たり前に受け入れてくれるような、すごく安心感のある方です。うまくできなかったり、活動が大変だなぁって時には、「館長さんに会いに行こう」って気持ちになったくらい、心の支えになってましたね。

活動のやりがいはどんなところ？

星：そうそう。子どもたちと同じくらいスタッフさんと会いたくなるんですよね。

川島：みんなお母さんみたいな。（笑）あと、工作が好きなスタッフの方もアイデアマンで、一緒に考える時間が楽しいです！

自分達の活動が、地域にどんな影響を与えられていると思いますか？

星：もともと活動を通して「人と自然をつなげる橋渡しがしたいな」と思っていました。地元がすごい自然豊かな場所だったので、自然が元々大好きでした。自然と人との関わり方を勉強したいと思って園芸学部に進みました。つながりのなかでも、心の豊かさと社会の豊かさ、自然によって心を豊かにしたり、コミュニティを作る…そういういろんな種類の豊かさを勉強したいなと思って大学にいます。自然の良さを小さい子に伝えたり、遊びを通して地域の人同士を繋げることが価値になってると思います。

川島：似ているところはあると思うんですけど、人と緑を繋げること。自然の近くで遊びながら、いろいろな年齢の子たちやスタッフと関わった経験を将来ふと思い出して、何かに繋がってきたりするんじゃないかなと思ってます。

将来、何をやりたい？

星：公園・緑地のデザインや管理を通して、人と緑が関わる環境をつくっていきたいです。

川島：将来何を、というところまでは今は考えていませんが、今大事にしているのは、子どもたちに対して話をきいてくれる人や交流がこの「森のこども館」にはあることを自分の行動、言動で伝えることです。

2 ロボット、教育、自治会etc..
異なる分野で活動
（大学1年生）

この3名は
今回の
インタビューが
ほぼ初対面！



【左】大城さん
松戸ロボット研究会代表

【中央】久野井さん
めだかの学交など、
子どもや教育に関する活動

【右】青木さん
子ども会や
自治会活動等に参加

活動を始めたきっかけは？

大城：中学校の科学部で友達とロボットを作っていましたが、卒業後も今の仲間たちとロボットを作り続けたくて団体を立ち上げました。団体の方が、公共施設などを使いやすいのも理由の一つです。ロボットは大きいので、場所がないと動かせないんです。

久野井：中学3年間、松戸青少年会館の「Plan&Try（学生を対象とした、小学生向けイベントの企画運営プログラム）」に参加していました。教育格差や学生主体の体験活動に関心が出始めてきたときに、そのプログラムに関わっていたNPO法人子どもっとまつどや他の大人たちと「一緒にやってみない？」という声掛けをもらって、今の「めだかの学交」の活動をしています。

青木：小学校のときに参加していた子ども会が中学生に上がると卒業扱いになり、そのままふらっとボランティアとして参加していたことでしょうか。親も自治会活動に関わっていて、地域の人との関わりが子どもの頃から自分にはあったので、自然な流れで地域活動に参加する良い環境だったんだと思います。

活動のやりがいはどんなところ？

大城：工作のワークショップに参加する子どもたちが自分で動いたロボットを見たときの表情です。驚いたような、キラキラした表情をしてくれること。自分たちが中学1年生の時に味わった感動を、目の前の子がいま感じているんだな、と思うと嬉しいですね。

久野井：地域活動にはいろいろな人との出会い・経験があります。それに、新しいことであったり、「どうしたらこれを実現できるのか」という未来志向でチャレンジできることに面白みを感じます。

活動について、やりたいのにやれていないところ（課題）等はありますか？

大城：人と会うと活動が広がるけど、広がり続けてしまうところもあると感じています。メンバーも大学に行ったばかりなので忙しい状況です。法人の事務作業、実際のイベント、広報のSNS運用など…。人手については困り事ですね。

久野井：同じですね。ヒトとカネは悩みです。アルバイトをしている学生も今時は多いので、全員集まれる日って難しいんです。「後輩も育てないと、自分たちの代で活動が終わってしまう」「交通費くらいは払ってあげたい」…どうやっていこうかなぁ、って悩みますね。助成金も制度としてはありますが、自分たちでマネタイズしていきたいし、その必要があると感じています。

青木：僕もヒト関連ですね。やりたいことを今までは一人でやってきたんですけど、仲間が欲しいと思うようになりました。でも、友達とか、同世代で、なかなか共感してくれる人がいない。そういう人を見つけるのが難しいんだな、って思いました。

松戸の地域（活動）の魅力を一言で言うと？

大城：やりたいと思った時に始められる環境がある。活動拠点の提供や協賛をしてくれてる松戸の企業や、つながりを紹介してくれた人、法人化の際にNPOのことを親身になって相談に乗ってくれた人など、助けになった大人が松戸にはたくさんいます。つながりのおかげで色々できるようになったと感じるし、そうした大人達とは会う度に話が広がっていくのが楽しいです。

久野井：何をするにしても、人がいいこと。目的を持った、軸を持った人が多いと感じます。地域のあちこちで「こういうことがしたい」といえる人と出会えたことが、自分にとってもよかったなと感じます。

松戸の魅力・課題のいずれにも「ヒト」が出てきましたが、どんな人と繋がりたいですか？

大城：活動を応援してくれる人がいるとありがたい。ロボットは詳しくない、興味がない人でも、嬉しいです。ボランティアをやってみたいな、地域と繋がりたいなと思っている人からでも連絡を貰えると嬉しいです。逆に退職シニアの方など、技術のある人ももちろん有難いです。

青木：折り紙を好きな人。僕が好きな折り紙のイベントをやってみたいんです。折り紙が好きな子どもたちもいるし、絶対になくならないコンテンツだと思っています。一方で、「イベントを作る」ってことは色々な人と関わっていくということでもあると思うので、突き詰めると全ての人と知り合いたいです。世界中の全ての人と知り合えるように頑張ります。（笑）

久野井：楽しそうな人。自分のなかの選択肢の幅を広げてくれたり、いろいろな体験をさせてくれる人。それは年齢によらず、小学生や中学生かもしれない。突き詰めると僕も全ての人になるかもしれないですね。（笑）





3 町会・自治会で活動
（大学４年生）

普段、同年代としか話してなかった環境が、町会活動では１世代、2世代離れた人達と話せる、というのが刺激的でした！

【右】今泉さん
小金原９丁目町会役員

【活動のきっかけ】幼少期からこの地区に住み、町会活動に参加する母に後押しされて高校の時に夏祭りのお手伝いに参加したこと

松戸の好きなところはどこですか？

程よく空白があるところ。繁華街のようになっていないからこそ、町会も含めた地域のコミュニティが価値を持って広がっているんだと思います。一番楽しいなと思うのは、色々な世代と関わることができることです。仕事でもなく、友達のようなノリでもなく、色々な世代と関われる場がなくなってほしくないなと思います。後は、こうした生活の身近に人と関われる場があることは、自分の将来、シニアになった時にも安心できる要素だと感じます。

活動のやりがいはどんなところ？

市民50万人中で、こうした地域活動をしている若者って100人もいないんじゃないか、と思っていて。その中に、いま自分がいるって考えると、町会活動を広めたい、担い手不足をどうにかしたい、と、ある種の使命感のようなものも感じますし、ともと「町会ってこういうもの」というイメージが自分にはなかったので、やることの全部が新しくて、面白いんです。でも、一方で若手の人や現役層の人達が町会に参加しにくさを感じるのは、その裏返しの部分もあるかもしれないですね。

「自分はまったく今まで関わってなかったのに、町会活動ってこれから参加できるの？」という印象を持っている人もいるんだと思います。

シゴトにするかはおいておいて、こういった活動を続けたいとは思っています。でも、行政職など、仕組みを作る側に自分がなるのはなんか違うな、とも思っていて、こうしたことを職にするにはどうすればいいかな、と思ってます。

やりたいのにやれていないこと、やりたいことは？

町会に入ってるけど活動に参加していない人をつなげる橋渡しをしたい。

活動に参加していない人は、その人が自分で町会長のところに行くのが一番シンプルですが、それが難しいって人もいると思う。自分が間に立って、つなげる役割がしたいなと思いますね。つなげるだけでなく、マニュアルや資料など、研修会などもやったりして予備知識も提供できる形にしたい。具体的に考えてはいますが、一緒にやってくれる人を集める、というところで大苦戦…。町会活動をしている若い世代の人がいれば、つながりたいですね！

インタビューを終えて

ユースの皆さんが語る松戸の魅力や、めざす未来を眩しい思いで聞かせていただきました。若い世代が地域への関心を高めてくださっていることに、希望を感じます。話の中で、「人」というキーワードが心に残りました。世代や活動種を超えた「人」とのつながりが、今後の道筋を拓いてくれそうです。本誌の読者の中にも、その１人となる方がいらっしゃると嬉しいですね。私も微力ですが、彼らの後押しができる大人であろうと思いました。（インタビュー協力：まつど地域活躍塾修了生　西脇）

サポセンの
事業報告
Saposen Event Report

1 NPO・市民活動よろず講座
2026年3月29日（日）開催

松戸の市民活動を読み解く
～“はじまり”と“いま”を知る～





松戸の市民活動やNPOは、この20年余りでどのような歩みを重ねてきたのでしょうか。今回のよろず講座では、まつど市民活動サポートセンターが設置される前に組織された「松戸市パートナーシップ検討委員会」に参加していた高橋盛男さん、渡辺洋子さんをゲストにお迎えし、センター設立の背景や当時描かれていた市民活動支援のあり方についてお話を伺いました。

当日は、まつど地域活躍塾の卒塾生をはじめ23名（会場22名・オンライン1名）が参加し、会場が満席になるほどの盛況となりました。講座では、サポートセンター設置に向けてどのような施設や仕組みが求められていたのか、行政と市民がどのような関係性を築こうとしていたのかを振り返るとともに、その後20年間の市民活動の広がりや新たな担い手の誕生について語り合いました。

ゲストからは、当時の市民と行政による協働の試行錯誤や、市民が主体的に地域課題に取り組むための拠点づくりへの思いが紹介されました。また後半の意見交換では、参加者同士が円座になって語り合い、それぞれが感じるサポートセンターの役割や今後の期待について共有しました。

参加者からは**「松戸の市民活動の歴史がよく分かった」「行政と市民が協力しながら解決策を導き出してきた経緯を学べた」「サポートセンターに来れば誰かが声をかけてくれる安心感がある」**といった声が寄せられました。また、センター長交代を控えた節目の時期でもあったことから、**「これからの発展が楽しみ」「新しい世代とともに松戸の市民活動をさらに広げていきたい」**といった期待の声も聞かれました。松戸の市民活動の“はじまり”を知ることで、その先にある“未来”を考える貴重な機会となりました。

2 みらいフェスタ2026
2026年3月21日(土)10：30～15：00



会場　松戸中央公園
参加者　当日約3500人（出展48団体/67ブース）
- 子ども向けスタンプラリー配布数：1020部
- こどものまち参加者：170名

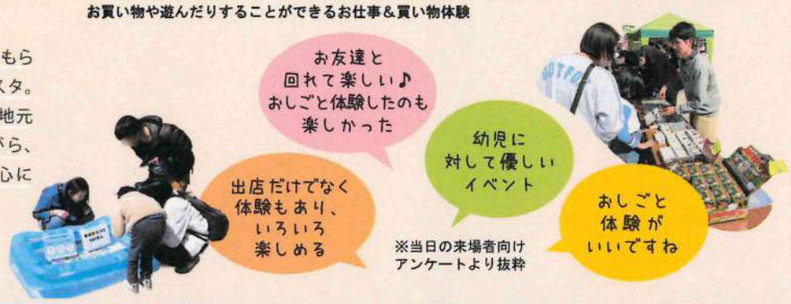
桜がちらほらと開花し始めている中、今年のみらいフェスタもお天気に恵まれました。定番となった「こどものまち※」と「スタンプカード」にはたくさんの子どもたちが参加してくれて会場には多くのご家族連れの姿が見られました。また、様々なブースや出展があり、学生ボランティア、大人やシニアも多数ご来場いただきました。おかげで世代の垣根を超え、まさに三世代が共に笑顔で集う温かく活気に満ちた楽しい交流の場となりました。

※「こどものまち」：子どもたちが、企画に賛同した団体ブースでお仕事をして「みらい券」をもらい、お買い物や遊んだりすることができるお仕事＆買い物体験









※当日の来場者向けアンケートより抜粋

みらいフェスタとは？
市民活動を市民のみなさんにもっと知ってもらおう!という思いから始まったみらいフェスタ。「こどもは、みらい」をキャッチフレーズに、地元の事業者さんなどにもご協力を頂きながら、様々な企画やブースが出展されこども中心にみなさんが楽しめるイベントです。











市民活動紹介

CHALLENGER チャレンジャー

松戸ロボット研究会

Matsudo Robotics

代表：大城公平

ホームページ





ロボットをもっと身近に！

松戸ロボット研究会（松戸ロボティクス）では、松戸市市民活動団体として
ロボットや機械、システムなどの研究、開発に加えて科学技術の推進・振興活動を行っています。
「ロボットとインフラを繋ぎ、ロボットをもっと身近にする」をコンセプトに活動しています。

科学部卒業から市民活動団体へ：純粋な「面白い」が原点

大城君の原点は小3の時。技術者の父の勧めで入会した新松戸未来館での「松戸市少年少女発明クラブ」。父から直接はんだ付けなども教わり、「面白い！」と思いました」と笑顔で振り返る。進学した地元中学の科学部はロボット製作の強豪で、夏休みも先輩と松戸市市民交流会館・すまいるで活動する中、学校外でも活動できることを知っていきました。

中学卒業後も製作を続けたくて市民活動団体を設立。サポセンとの出会いを機に相談を重ね、まつどみらいカイギでのプレゼンやまつど100人カイギへ登壇。地域の大人と繋がっていきました。

頼れる地域の大人たちと、広がるモノづくりの拠点

多くの大人が関わるようになり、大学受験後にはNPO法人※も設立。倉庫を無償で貸してくれた篤志家には「本当にありがたかったです」と感謝のきもちでいっぱいのよう。その拠点には、世代や国籍を超えて幅広い面々がおのおの毎週土曜日に集い、アドバイスを送り合いながらモノづくりを楽しんでいるそうです。

一方で、人手・資金不足の悩みも尽きません。「チャンスが広がったりそれに伴う事務作業も増えたりしているが、昔からの仲間は大学に入ったばかりで忙しく、とにかく人手が足りない」とのことです。

松戸市をロボットの力でもっと良い街へ：18歳が描く未来の野望

最近では、夜間中学の松戸市立第一中学校みらい分校での出張ワークショップ授業や、市内の市民団体のお困りごとをロボット技術で解決するなど、地域に根ざした活動を活発に展開。

一見順風満帆だが、大城君の夢はさらに大きい。ロボット製作に必要なものづくりの共有スペースの開設や、地域の中でロボットやモノづくりに興味を持ってもらえるようなイベントの開催を目指しているそうです。

「中学の時は作ることが楽しかったけど、だんだん実社会で使えることが大事だと思うようになった」「生まれ育った松戸市を、ロボットでもっと良い街にしたい」という大人たちへの感謝を胸に、一歩一歩技術の探求を続ける大城君のこれからに期待が高まります！

※2026年3月設立／NPO法人松戸技術革新センターM-TIC







スタッフコラム Staff Column　コーディネーターって何をする人？

サポセンには様々な分野のコーディネーターがいます！

サポセンには「コーディネーター」が常駐しています。
地域での活動は多くの場合「人の想い」をきっかけに始まりますが、進めていくには活動の「場所」や「資金」「運営メンバー」などが必要になることがあります。また、「始めてみたいけど、何が必要なのかわからなくて不安」という声もよく耳にします。地域を中心に続いてきた活動が、人材の不足や地域社会の変化への対応を余儀なくされて活動しにくくなっているというお話もよく聞きます。
サポセンのコーディネーターは、こういった問題を整理したり、利用できる制度や似たような事例をご紹介したりして、皆さんに伴走支援をしています。

※ご相談の時間は１回あたり１時間程度が目安ですが、１回では終わらずに、進行の様子も伺いながら期間をおいて２回、３回と続くこともあります。



＃個性豊かなコーディネーターとその得意分野をご紹介します！



※コーディネーターは全員が毎日サポセンにいるわけではなく、交代で勤務しています。事前にご相談の内容をお電話かメールでお知らせいただければ「得意分野」のコーディネーターと日程調整させていただきます。まだまだご相談の内容が定まらなくて「あれもこれも」という方もぜひ一度気軽にご連絡ください！

サポセン新規届出団体を紹介します！

2026年３月１日～６月30日（届出順・敬称略）

NEW!

- エディプル ウェイ プロジェクトチーム
- coconowa
- 踊る　まつどのひとたち
- 男のためのサロン　暮らし助け合いタイ
- 松戸の行政書士　相続診断チーム「ありのみ」
- みんなのよりみち@オレンジカフェひなげし
- 東金町ビーバーズ 下級生父母の会
- まつど平和の学校実行委員会
- TEAM　nokisaki
- トリプル　リンク
- デジタル時代の子育てデザイン
- つぼみ会
- 胡録台ローヤルコーポ管理組合
- 松戸美術会
- 松戸技術革新センター M-TIC
- 特定非営利活動法人 D.tk2
- 一般社団法人 共育ステーション地球の家
- MOKKE
- 松戸訪遊会

まつど市民活動サポートセンターのコーディネーターの1日

コーディネーターの仕事は、毎日決まったスケジュールではありません。相談内容も出会う人も日によってさまざま。ある一日をのぞいてみましょう！

今日はどんな1日になるかな？



9:30 メールチェック
相談予約や問い合わせを確認し、一日の準備を進めます

10:00 団体さんの相談
SNSでの情報発信や活動場所、団体運営などについて、一緒に考えます。





13:00 講座の準備
翌日の講座に向けて、スライドや配布資料を作成します。



15:00 「大人のためのボランティア体験」面談
松戸市内のボランティアを紹介し、活動先とのマッチングを行います。

そのほかにも‥
- ふらっと立ち寄った利用者さんの相談
- 施設利用のサポート
- 電話でのお問い合わせ対応
- 新たに活動を始める方の団体届出の受付

など、一日を通してさまざまな人と関わっています！

おつかれさまでした！
日曜は17時まで、月～土曜は21時まで開館しています！



松戸市は県内でも市民活動が活発なまち。届出団体数もついに累計1,000団体を突破しました。コーディネーターは、そんな地域の活動を日々支える「縁の下の力持ち」。今日もセンターでは、新しい出会いやつながりが生まれています。



ボランティアを始めたい方、市民活動団体を立ち上げたい方、運営や広報で悩んでいる方も大歓迎。
町会・自治会に関するご相談も歓迎しています。
まつど市民活動サポートセンターは、地域での一歩を応援しています。



サポセンニュースレター ぽっく

第41号（2026年蛍籠号）
発行日：2026年6月30日
（※年3,4回発行）
発行元：まつど市民活動サポートセンター
（指定管理者NPO法人まつどNPO協議会）

主な設置場所
松戸市内の図書館、市民センター、公民館等各種公共施設などに設置しています。

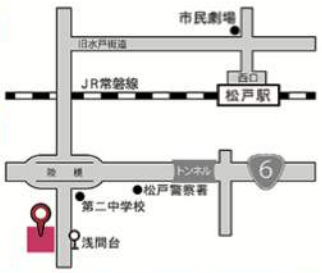
設置協力店

Sampo Café（八ヶ崎 7-31-5）
松戸観光案内所（本町 7-3）
やしま商店（本町 6-3）
隠居屋 IN kyo-Ya（南花島中町196）
いわぼんホール（岩瀬38）
紙敷あんど（紙敷1135）
さんさん カフェ（仲井町 2-6-4）
みんなでパーク（小金原 6-2-13 京成リブレ 2 階）
本屋 BREAD&ROSES（常盤平 4-8-15 ウエキビル 1F）
良文堂書店松戸店（松戸市松戸 1225）
omusubi 不動産（稔台 1-21-1 あかぎハイツ 112）
Coworking Space Flat Café & Bar（新松戸 3-289）
昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿（千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2）
松戸スタートアップオフィス（松戸 1307-1 松戸ビル 13F）
まちかどアトリエ Neiro（松戸 1117 ビラ松濤 2F C号室）
鉄塔の下の倉庫（六実 2-38-9）
さくら島村トータルクリニック（和名ケ谷 1424-22）
Base Bettaku（小根本 159-3 アムール豊友 104）

まつど市民活動サポートセンター
〒271-0094　松戸市上矢切 299-1（総合福祉会館内）
TEL：047-365-5522　FAX：047-365-5636
E-mail：hai_saposen@matsudo-sc.com
URL：http://www.matsudo-sc.com/
facebook：https://www.facebook.com/matsudo.sc
Instagram：https://www.instagram.com/hai_saposen/
X：https://x.com/matsudo_sc

開館時間
月～土：9時～21時
日：9時～17時

休館日
第1・第3水曜、年末年始
（12/29～1/3）



編集後記
サポセンでは朝を待てずに夕刻に咲き始める朝顔に会えることがあります。探してみて下さいね！

「ぽっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！
ニュースレター「ぽっく」を、お店や施設に配架していただけませんか？ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介いたします。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。
詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。